

【堤内地と堤外地の違い】

堤防に守られている住宅地や農地側などを「堤内地(ていないち)」、堤防より河川側を「堤外地(ていがいち)」といいます。

【内水氾濫と外水(洪水)氾濫の違い】

本川の水位が高く上流の排水路が下流に流れずに溢れたり、排水路の能力不足により水が溢れることを「内水氾濫(ないすいはんらん)」といいます。河川の洪水が堤防を越えたり堤防を突き崩して起こる氾濫を「外水(洪水)氾濫(がいすい(こうずい)はんらん)」といいます。

【内水氾濫の特徴】

原因：集中豪雨や持続的な降雨により排水設備の能力を超えた場合や、下流の水位が上昇し上流から排水されない場合に発生します。

影響：主に都市部やその周辺地域でみられ局地的な範囲に影響を及ぼします。

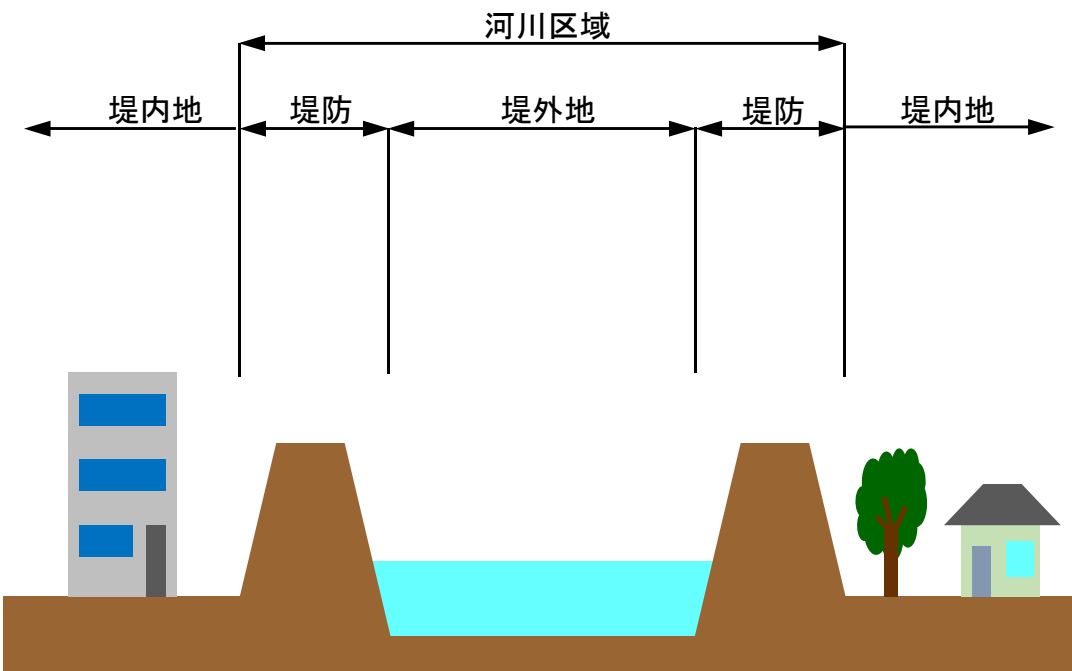
特性：排水されにくいため被害が発生した地域では長時間にわたり滞留することがあります。

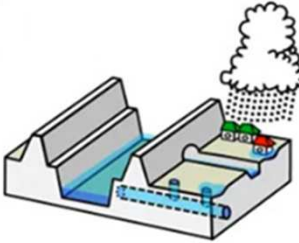
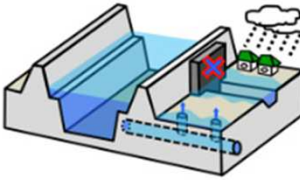
【外水(洪水)氾濫の特徴】

原因：河川などの水位が上昇し、その水が堤防を越えたり堤防が決壊したりして周辺地域に流出することで発生します。

影響：広範囲にわたり影響を受けます。ときに多くの家屋等が水没したり流出したりします。

特性：水位が下がると比較的速やかに水が引く場合が多いですが、大量の水が急速に流入するため短時間での浸水深が深くなります。

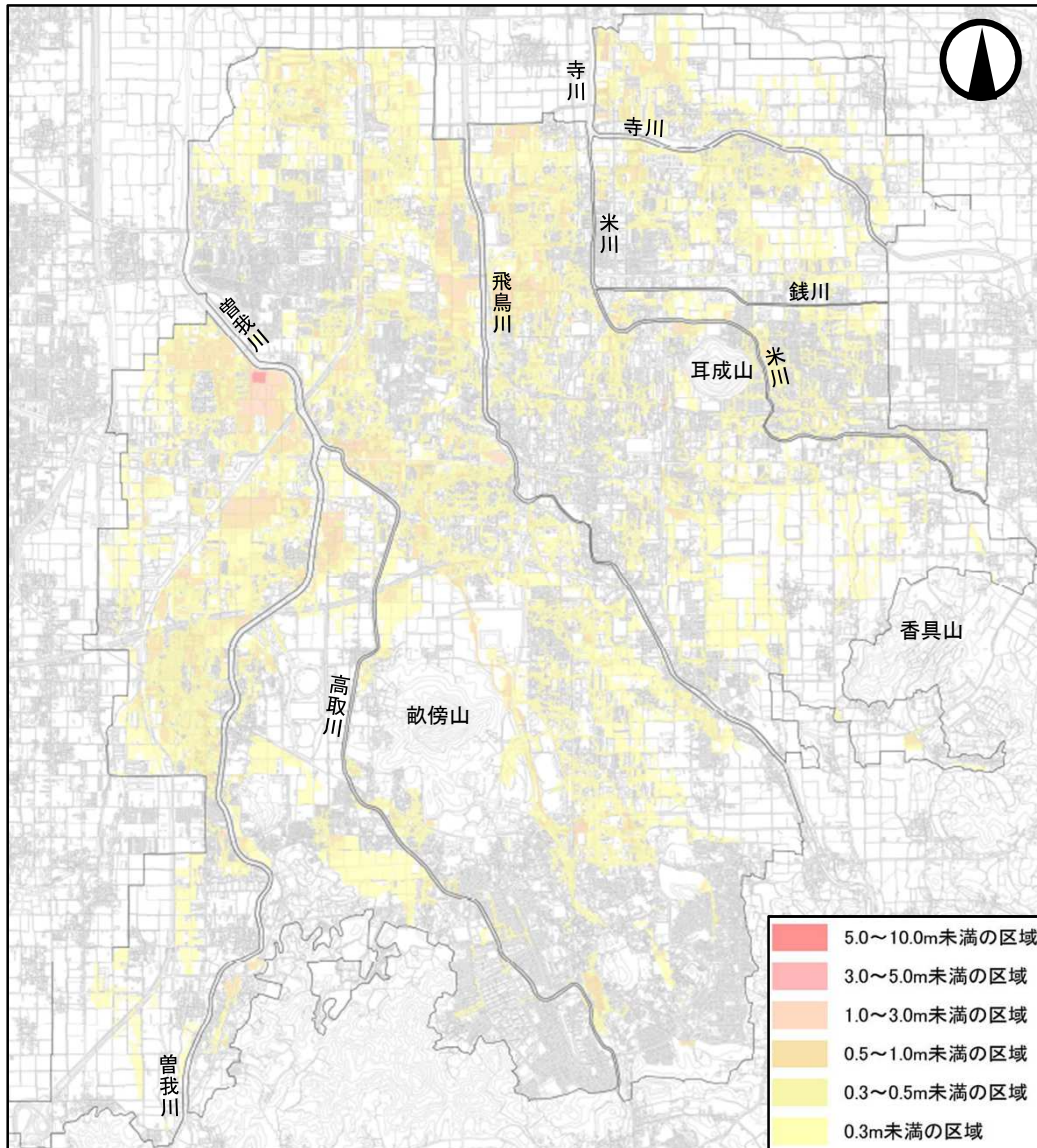


内水氾濫	外水氾濫
 <p>①短時間強雨当により 雨水の排水が追いつか ず、浸水が発生する。</p>	 <p>②合流先の河川の水位 上昇により、水路や 支川などから排水でき なくなった雨水があふ れる。</p>
<p>河川の水位が上昇し、越水・溢水や堤防の決壊などにより、堤防や河岸から流水があふれる。</p>	

内水による浸水は、河川の堤防の決壊や河川からの溢水による浸水と比較して、「浸水被害の発生頻度が高い」、「浸水被害の発生までの猶予時間が短い」という特徴があります。また、河川から離れた地区においても浸水被害が発生するなど、外水(洪水)と内水では浸水区域が大きく異なることがあり、浸水が発生する際の気象条件、降雨開始から浸水発生までの時間、浸水の頻度等が異なることなどから、洪水浸水想定区域図のみでは水災害リスク情報として十分とは言えません。

このことから、浸水被害最小化に向けて、内水浸水想定区域図の作成、公表により、内水による浸水のリスクについて周知するものです。

想定最大規模の内水による雨水出水浸水想定区域



想定最大規模の外水(洪水)による雨水出水浸水想定区域

